

幼児への試験は大きく分けて、言語による知能テストと図形による知能テストの二通りありますが、私は言語によるもののほうが知能指数をより正確に表現できると思うのです。というのは言語は知能そのものだといいと思うからなのです。

言葉が正しく使えて、その言葉の教が多い子どもほど知能が高くなっています。知能は言葉によってつくられるということは、今では学者の間でも定説になっています。知能というものは、かつては生まれつきであると言われていたのですか、幼児期につくられるということもわかりました。幼児期に言葉によって形成されることもわかったわけです。

ですから言葉の教育をしっかりやるということが、知能を正しく発達させる道なのです。そして言葉の中でも最も安定したものが文字ですから、子どもに文字を使わせることが一番の近道なのです。文字を知ることによって、子どもがひとりでどんどん学習ができるわけです。

体験ということが大事ですし、言葉を使ってその体験を表現することが、人間としての知能を向上するのに役立つのです。できるだけ生きたいろいろな体験をさせるということは、親が子どもに対してやれる最良の教育ではないかと思います。

ペーパーテストで知識を詰め込むよりも、もっと基礎になる生活のまわりのさまざまなものを、体験をさせることのほうが大切です。体験させるだけではなく、質問をして考えさせることが大事です。これによって、子どもは「観察」して答えることになるのです。

言葉を通さないと、ただ見るだけでは「見れども見えず」ということになるわけです。私たちは毎日同じ場所を往復していて、道にあるものを見ているはずなのに、何があったかと聞かれても答えられないものたくさんあります。それと同じことです。

ポイント:赤ちゃんのうちは世界は家庭の中だけですから、ヨチヨチ歩きができるようになったら図書館でも美術館でも動物園でも、いろいろなところへ連れ回して世界を広げてやることです。連れて歩いてさまざまなものを見させ、感じさせ、場合によっては質問して考えさせる、これが一番能力を伸ばすことなのです。知識を詰め込むのではなくて、考えさせることです。